

◇令和8年／2026年5月号 第114号◇

會



フジサンケイグループ

報

産経国際書会

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



産経国際書会は4月23日、令和8年度総会を開き、第43回産経国際書展の開催概要など令和8年度の事業計画のほか、予算・人事案が承認されました。



産経新聞社相談役
産経国際書会会長
飯塚浩彦



産経国際書会
理事長
高橋照弘

「SHO」を世界の心の支えに

4月を迎え、産経国際書会も新たな1年のスタートを切りました。

社会はめまぐるしく変動を続けています。国内では、衆議院解散、総選挙があり、自民党が大きく議席を伸ばしました。一方で、米国、イスラエルによるイラン攻撃があり、世界の先行きは不透明さを増しています。

こうした危機的な状況にあるからこそ、芸術文化の果たす役割は大きいと感じています。異なる環境、社会にいる人たちの共通の「心の支え」となり、連携をもたらすものだと考えるからです。

産経国際書会は、積極的に国際交流を進め、世界に書文化の発信を続けて参りました。いまこそ、その力を発揮する時だと思えます。

国内では、人口減少やレジャー、習い事志向の変化などに伴う書道人口の減少が続く、特に若年層の書道離れは深刻です。

令和8年度からは産経国際書会に「DX推進部」が発足します。インターネットやSNSを駆使して、書を楽しむ仲間である会員の皆さんの満足度を高め、書に関心がある人たちを新しい仲間として書会に迎え入れようという試みです。この取り組みは、国内の書文化を守るとともに、今年末に決まるであろう「日本書道のユネスコ無形文化遺産への登録」も念頭に、「SHO」を世界の人々の心の支えとなる芸術文化として広める活動になると期待をしています。

今後も皆様と連携しながら書文化の振興に尽力して参りますので、引き続きご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

日本書道の継承・発展を強く意識

令和8年度の産経国際書会がスタートしました。会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は書技向上に研鑽され産経国際書会発展のためご尽力をいただいておりますことに感謝御礼申し上げます。

先に開催された総会において令和7年度決算、令和8年度事業計画、予算等審議承認をいただきありがとうございます。今後、事業計画に従い実行されていきます。まず始めは本展の審査会、ジュニア展審査会、本展、地方展、研修会、研修旅行等が立て続けてあり過密なスケジュールが組まれています。一連の事業によって効果をあげ書会の力をより強固なものとし躍進させていかなければなりません。会員の皆様のご理解、積極的参加、ご協力がぜひとも必要であります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本年12月には念願のユネスコ無形文化遺産登録が予定されています。しかし登録を喜んでばかりはられません。登録が最終目的ではありません。厳しい現実の中、日本書道をどう継承発展させていくのが重要です。私たちは大変重い課題と責任を背負うこととなります。このことを強く意識して書活動を行っていかなければならないと考えます。

終わりに本展、地方展を通し産経国際書会ファンを増やし、会員の輪が広がることを期待しています。

令和 **8** 年 産経国際書会総会 開催



産経国際書会総会で執行部の説明を聞く参加者

令和 8 年度予算・人事案など承認

産経国際書会は 4 月 23 日、東京都千代田区の手町サンケイプラザで令和 8 年度総会を開きました。議事は高橋照弘理事長が進行。大阪・関西万博展、産経国際書展、新春展など 7 年度の事業報告が行われました。

7 年度決算、8 年度予算・人事案、第 43 回産経国際書展などの事業計画が承認されました。

冒頭、あいさつした飯塚浩彦会長（産経新聞社相談役）は、年末の日本書道のユネスコ無形文化遺産登録に触れ「これを機会に一つ大きな弾みにしたい。産経国際書会を国内外に発信する絶好の機会」と強調。変革を求められる時代の流れを念頭に「産経国際書展は今年 43 回目。その在り方を見詰め直しながら前に進めていくという時期にあるのかもしれない」と語った。



議事を進行する高橋照弘理事長

〈議案〉

1. 令和 7 年度・第 41 期（令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日）の事業報告
2. 令和 7 年度・第 41 期（令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日）の収支報告
3. 令和 8 年度・第 42 期（令和 8 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日）の事業報告
4. 令和 8 年度・第 42 期（令和 8 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日）の収支報告
5. 人事案件
6. その他

第41期 事業報告

◆令和7年度総会

令和7年4月17日(木)、大手町サンケイプラザで60人が参加して総会が開催された。第40期の決算、事業報告の了承と第41期の予算、事業計画、人事などを承認した。

◆産経国際書展 大阪・関西万博展

会期 令和7年6月14日(土)～6月19日(木) 6日間
会場 大阪・関西万博会場内ギャラリーEAST
内容 産経国際書会に所属する最高顧問から審査会員まで163人が万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」をモチーフに、それぞれが思いの言葉を表現した作品を展示。

無料(2025大阪・関西万博の入場チケットが必要)

入場者 10,127人

開幕式 14日(土)14時から会場内でオープニングセレモニーを行い、今口鷲外名誉顧問、手島泰六名誉顧問、原田圭泉名誉顧問、風岡五城名誉理事長、高橋照弘理事長、松井玲月副理事長、飯塚浩彦産経新聞社取締役会長兼産経国際書会会長、鈴木裕一常務取締役の8人でくす玉割りを行った。(※飯塚、鈴木は役職は当時。飯塚は現在、産経新聞社相談役兼産経国際書会会長、鈴木は岡山放送代表取締役社長)

【イベント】会期中、「うちわに文字をかこう」というワークショップを実施。筆でうちわに好きな文字を書いてもらい、書を楽しむことを目的とした。来場者が参加。書による交流を実践することができた。

◆2025産経国際書会初夏研修会「大阪・関西万博展 & 澄懷堂美術館特別鑑賞ツアー」

日程 令和7年6月14日(土)～6月16日(月)

2泊3日

目的地 大阪・夢洲と奈良市、三重県四日市市

行程 1日目 「産経国際書展 大阪・関西万博展」開幕式・展覧会鑑賞、万博視察
2日目 奈良・墨作り、興福寺、法隆寺参拝、和歌の浦温泉で懇親会
3日目 澄懷堂美術館訪問(産経国際書会の研修会のために特別に陳列、開館)

参加者 20人

◆第42回産経国際書展

審査会 **審査日** 令和7年5月27日(火)～5月30日(金)
27日搬入、審査は3日間

会場 東京都立産業貿易センター台東館5階展示場(東京・台東区)

審査員 のべ59人、うち14人が特別選考委員

展覧会 **会期** 8月14日(木)～8月21日(木) 7日間
18日(月)休館

会場 東京都美術館
ロビー階及び1階第1、2、3、4
展示室と2階第1、2展示室

作品数 5,509点(昨年5,801点)

※東京会場総展示数=2,618点

入場者 4,534人(昨年5,224人)

贈賞式 8月19日(火)、明治記念館「蓬莱の間」
1部13時から 公募、会友受賞者 222人
2部15時から 無鑑査、審査会員受賞者 50人

祝賀会 8月19日(火)、明治記念館「富士の間」
297人出席、高円宮妃殿下ご臨席(2部贈賞式も)

【イベント】①初日14日(木)13時から齋藤香坡最高顧問、山下海堂最高顧問、竹澤玉鈴名誉顧問、原田

圭泉名誉顧問、高橋照弘理事長、坂本香心理事長代行、渡邊麗理事長代行、飯塚浩彦産経新聞社相談役の8人がテープカットを行った。

②17日(日)14時～15時30分 揮毫会

高円宮賞 高橋照弘理事長
内閣総理大臣賞 小川岬岑常務理事
のべ約100人が鑑賞。

③19日(火)11時～11時30分 ギャラリートーク
高円宮賞・高橋照弘理事長、内閣総理大臣賞・小川岬岑常務理事、韓国文化院長賞・渡邊祥華常務理事、モンゴル国大使館賞・菅原有恒常務理事、専管理事優秀賞・鈴木暁昇専管理事、理事優秀賞・中平博子理事、産経国際書会理事長賞・栗原昇蘭審査会員の7人が自作を解説。約80人が参加。

④20日(水)14時～15時30分 書道フォーラム
「今さら聞けない書の疑問」
コメンテーター：青木錦舟副理事長、木村大澤常務理事、建部恭子副理事長、永田龍石副理事長／進行：町山一祥副理事長、杉本弥美(事務局)
約150人が講堂に集まった(入場無料)。またネットによるライブ配信を行った。

【お成り】14日(木)15時～16時 高円宮妃殿下お成り
高円宮妃殿下が東京都美術館にお成りになり、産経国際書展と産経ジュニア書道コンクールをご鑑賞された。説明は本展を金丸鬼山副理事長、ジュニア展を松崎龍翠副理事長が行った。

【特別展】①「中国 明清書画名品展」特別展示
祝允明、張璠、王鏊など日本でおなじみの明清の書家作品59点を展示。

②「産経国際書展大阪・関西万博展」で展示した作品162点を改めて本展会場内で展示。東京近郊の方々を対象に披露した。

③特別色紙展＝御題は「萬」と「博」、応募は63点(昨年55点)

④特別展示＝芸能人・文化人の書
岡部まり、中山秀征、藤田三保子、松村雄基、矢野きよ実、横田南嶺(円覚寺派管長)、山川崇玄(妙心寺派管長)

◆2025産経ジュニア書道コンクール

作品締切 令和7年6月10日(火)必着

審査準備 6月12日(木)、18日(水)

審査会 **審査日** 6月24日(火)

会場 東京都美術館地下3階

審査員 30人(実行委業務8人)、実行委員3人

審査後整理 6月25日(水)、26日(木)

展覧会 **会期** 8月14日(木)～8月21日(木) 7日間
18日(月)休館日

会場 東京都美術館2階第3、4展示室

作品数 11,899点(昨年13,130点)

※全点を通期展示した。

入場者 5,348人(昨年5,825人)

贈賞式 8月16日(土)11時～16時 東京都美術館講堂3部構成として実施。

出席者 いきいき賞56人、ジュニア賞53人、高校生22人、国際賞3人、中学生以下特別賞23人

【席書会】高校生4人、中学生10人、小学生3人計17人の
上位入賞者が実施。

【ワークショップ】「筆と墨でうちわや半紙に字を書こう」
2階第3展示室
14日(木)13時30分～16時
15日(金)、17日(日)、19日(火)、20日(水)
10時～12時、13時30分～16時
21日(木)10時～12時

◆第42回産経国際書展 関西展

会期 令和7年9月2日(火)～9月7日(日)
会場 大阪市・大阪市立美術館天王寺ギャラリー
第1・3・4展示室
作品数 435点 ジュニア171点
入場者 1,502人

※関西在住者の万博展作品を特別展示
贈賞式・祝賀会 9月7日(日)、都シティ大阪天王寺
受賞者85人、祝賀会161人が参加

◆第42回産経国際書展 東北展

会期 令和7年9月12日(金)～9月17日(水)
会場 仙台市・せんだいメディアテーク6階ギャラリー
作品数 201点 ジュニア116点
入場者 1,360人

贈賞式・祝賀会 9月15日(月・祝)、ホテルメトロポリタン仙台
受賞者27人、祝賀会80人が参加

◆第42回産経国際書展 瀬戸内展

会期 令和7年9月23日(火)～9月28日(日)
会場 広島市・広島県立美術館
作品数 284点 ジュニア175点
入場者 858人

※瀬戸内在住者の万博展作品を特別展示
贈賞式・祝賀会 9月27日(土)、ホテル広島ガーデンパレス
受賞者34人、祝賀会118人が参加

◆第42回産経国際書展 中部展

会期 令和7年11月11日(火)～11月16日(日)
会場 名古屋市・名古屋電気文化会館5階ギャラリー
ー・イベントホール

作品数 319点 ジュニア258点

入場者 1,098人

贈賞式・祝賀会 11月16日(日)、ホテルガーデンパレス名古屋
受賞者44人、祝賀会98人が参加

◆第42回産経国際書展新春展

大作下見検討会 令和7年9月18日(木)
国立新美術館地下1階審査室

II(公募)審査 令和7年12月5日(金)

国立新美術館地下1階審査室

会期 令和8年1月21日(水)～2月2日(月)

会場 国立新美術館

作品数 848点

入場者 3,730人

大作品者 山本てるみ評議員、建部紘子審査会員、
上釜美由紀無鑑査会員の3人

テープカット 1月21日(水)10時30分

国立新美術館2階展示室入口
齋藤香坡最高顧問、山下海堂最高顧問、
竹澤玉鈴名誉顧問、手島泰六名誉顧問、
原田圭泉名誉顧問、風岡五城名誉理事長、
高橋照弘理事長、飯塚浩彦相談役の
8人で行った。

ギャラリートーク 1月30日(金)13時30分～14時

磯邊哲舟常務理事、眞田朱燕常務理事、
五月女紫映常務理事、建部紘子審査会
員、山本てるみ評議員の5人が行った。

贈賞式・祝賀会 1月30日(金)16時～18時 明治記念館

第42期 事業計画

◆第43回産経国際書展 審査会

会期 令和8年5月31日(日)～6月3日(水)
会場 東京都立産業貿易センター浜松町館5階
※5月31日は作品搬入、懇親会実施(予定)

◆2026ジュニア書道コンクール 審査会

会期 令和8年6月23日(火)※24、25日に作品整理
会場 東京都美術館地下3階

◆第43回産経国際書展

会期 令和8年8月14日(金)～8月21日(金)
会場 東京都美術館ロビー階、1階第1室～第4室、
2階第1、2室(計10室)

贈賞式 8月19日(水) 東京會館 13時～

◆2026産経ジュニア書道コンクール

会期 令和8年8月14日(金)～8月21日(金)

会場 東京都美術館2階第3、4室
贈賞式 8月16日(日) 東京都美術館講堂 11時～

◆第43回産経国際書展 瀬戸内展

会期 令和8年9月8日(火)～9月13日(日)

会場 広島県立美術館
贈賞式・祝賀会 9月12日(土) ホテル広島ガーデンパレス
14時～

◆第43回産経国際書展 東北展

会期 令和8年9月18日(金)～9月23日(水)

会場 せんだいメディアテーク
贈賞式・祝賀会 9月22日(火・祝) ホテルメトロポリタン仙台15時～

◆2026産経国際書会秋季研修会

会期 令和8年10月24日(土)～10月25日(日)

会場 国立新美術館3階講堂

内容 「書作品の制作について」方法論、実技、実演、
鑑賞…

◆第43回産経国際書展 中部展

会期 令和8年11月3日(火・祝)～11月8日(日)

会場 愛知県美術館ギャラリー

贈賞式・祝賀会 11月8日(日)名古屋ガーデンパレス12時～

◆研修ツアー(企画中・予定)

会期 令和8年11月21日(土)～22日(日) 1泊2日

目的地 岐阜県高山市～市内、光ミュージアム

内容 飛騨観光、光ミュージアムで美術、書に関する
講義、美術館見学など

◆第43回産経国際書展 関西展

会期 令和8年12月1日(火)～12月6日(日)

会場 大阪市立美術館

贈賞式・祝賀会 12月6日(日)都シティ大阪天王寺12時30分～

◆令和8年度理事会

会期 令和8年12月10日(木) 14時～

会場 大手町サンケイプラザ311・312号室

◆第43回産経国際書展 新春展

会期 令和9年1月20日(水)～2月1日(月)

会場 国立新美術館

贈賞式 1月29日(金) 明治記念館 16時～

第41期決算と第42期予算

税別

区分	第41期		第42期
	予算	実績	予算
収入	会費収入等	97,801,000	101,925,225
	事業費	21,500,000	26,252,084
支出	国際書展出品料	34,140,000	30,279,000
	その他運営費等	42,161,000	45,394,141
			39,570,000

会費収入

(単位:円)税別

区分	第41期決算	第42期予算
審査会員	51,245,500	51,000,000
無鑑査会員	20,410,000	20,500,000
会友	15,303,500	16,500,000
計	86,959,000	88,000,000

出品料

(単位:円)税別

区分	第41期決算	第42期予算
審査会員(3万円)	16,890,000	18,600,000
無鑑査会員(2万円)	7,680,000	8,000,000
会友(1.3万円)	5,460,000	5,850,000
計	30,030,000	32,450,000

第42期産経国際書会役員

2026. 4 ~ ○=新任(敬称略 50音順)

【会 長】	飯塚浩彦					
【最高顧問】	齋藤香坡	○手島泰六	村越龍川	山下海堂		
【会長代行】	伊藤富博	三笠博志				
【名誉顧問】	石川天瓦	今口鷺外	竹澤玉鈴	原田圭泉	平方峰壽	
【常任顧問】	今田篤洞	岩浅写心	岩下鳳堂	岩田正直	高木撫松	高頭子翠
	田村政晴					
【顧問】	○小野亭良	加藤深流	白崎菖汀			
【客員顧問】	齊藤華秀	晋 鷗	高畑常信	竹中幸生	趙 白鶴	平方研水
	劉 洪友					
【参 与】	大橋玉樹	木住野栄				
【名誉理事長】	風岡五城					
【理事長】	高橋照弘					
【理事長代行】	坂本香心	渡邊 麗				
【副理事長】	青木錦舟	○大庭清峰	勝田晃拓	金丸鬼山	武富明子	建部恭子
	永田龍石	正川子葉	町山一祥	松井玲月	松崎龍翠	山本晴城
【専務理事】	○糸 雅人					
【事務局長】	○大谷 卓					
【事務局次長】	杉本弥美					
【事務局顧問】	吉井雄二					
【常務理事】	赤堀翠柳	浅香秀子	石井理春	泉 芳秋	磯邊哲舟	伊藤春魁
	伊東玲翠	今井翠泉	岩村恵雲	上村陽香	江戸秀虹	遠藤乾翠
	○大段栄泉	岡本杏華	小川艸岑	小名雪揺	加藤香誓	鎌田悠紀子
	菊山武士	木村大澤	黒田浩芳	小杉修史	後藤教子	○五戸光岳
	五月女紫映	眞田朱燕	菅原有恒	○鈴木曉昇	鈴木青苑	鈴木博子
	鈴木祐洞	鈴木蓉春	田島青谷	鶴田秀紅	戸叶幽翠	長尾佳風
	中野和博	中村雪鷺	西尾秀誠	西川万里	林 龍成	久田方琥
	人見恵風	○平岡雄峰	堀江宣久	前田聖峰	眞々田壽扇	○三宅秀紅
	○村越弘鷹	本橋春景	諸留大穹	山下翠風	吉野富龍	渡邊祥華
	渡部美恵子					

【專管理事】	安蒜欣青 恩田瑞貞 小林紫雲 鈴木愚山 橋圭子 芳賀祥緑 宮川彪子 渡辺龍泉	生田佳葉 梶谷綾泉 小宮求茜 鈴木蒼 谷蒼涯 早坂喜伊 盛田理泉	遠藤香葉 ○加藤松亭 近藤豊泉 諏訪春蘭 富田静流 ○林清方 ○柳鵬翔	及川扇翠 北川佳邑 齊藤春欣 高野彩雲 中野桂月 菱沼東坡 ○山田秀園	大田桂水 小泉玲洸 佐藤志陽 武翠泉 ○中平博子 布施夏翠 和田玲砂	大久恵華 ○小杉秀花 篠原秀朋 竹内美翠 西尾蘭畦 松岡篁月 渡邊麻衣子
【理事】	伊藤牙城 大八木雅山 影山瑤琴 久米麗鳳 ○笹山紅樹 関根春峰 中塚龍華 松永葵心 矢崎藤香 ラモス逸子 高橋翠石 愛澤奏劍 飯田恵美子 石川由美 岩佐登花 圓田翠泉 大谷芳雨 小野寺佐苗 倉島美瑤 作村聖風 佐野麻理子 ○進藤栄峰 十亀紫風 橋黄華 田村廸子 銅山桂銅 中西美蕙 晴山竹芳 降幡加津 前田恵泉 松本玉葉 森田香深 吉本雪華	岩田和道 ○小笠原素心 加柴律子 ○倉賀野静 佐武照聲 高橋峰月 中村蘭香 藁口草川 山口了世 ○渡辺敦子 町田武山 秋葉秀厓 井形大正 石黒鴻羽 岩澤翠汀 黄木孝一 大平美侑 梶井香龍 ○栗原昇蘭 定野桂雪 澤村春泉 末永香雅 曾根小徑 ○建部紘子 塚原桃虹 利根川秀佳 中村紅舟 日野翔鳳 古谷紫水 正光紅雲 三浦希韶 八木一華 米山石峯	岩間桃香 ○岡田崇花 加藤竹藜 ○小関麗翠 柴山枝峯 ○田中春畝 長谷川明扇 宮崎礼子 山田娃泉 阿久津由美 石井政子 伊勢枝香 植木由樹子 大木翠晃 大谷煌水 加藤桂谷 小嶋カズ子 ○佐藤小菊 篠原寒鵬 杉原和香 高橋雄喜 田中香雪 津久井桂葉 富岡桃翠 野原永翔 福島恭子 星野秀水 松岡静仙 三宅華子 山崎翠嵐 渡邊正峰	梅内春藍 岡村公裕 叶春華 今野美晃 沈強 玉木白雲 平本一恵 宮平翠玲 山田華萌 新井瑞鳳 石上千擘 伊藤秀泉 植田泰之 大毛青舟 大山湯泉 門山玲花 ○後藤正子 ○佐藤不屈 島田昌広 鈴木邦仙 高松紅真 ○田中吳峰 常松昇儷 外山錦紅 羽根田菖風 福田世英 星野葉柳 松戸清玲 宮下信秀 山村萌扇	大澤芳洲 小名玉花 河口美櫻 齋藤欣江 鈴木葉光 玉田子翠 藤井峯子 ○宗像翠龍 横田玉華 荒井裕水 石川杏華 ○伊東星昴 梅田ちか子 ○大沢玉鳳 岡崎洋翠 カレン紅鸞 坂井光泉 佐藤マス子 清水畦花 須田瑞兆 田嶋華翠 ○田中秋芳 勅使川原里雪 中井悦子 林英道 藤井玉暎 堀江龍舟 松永光鳳 村山蛭泉 山本てるみ	大場映翠 小野左鶯 木村翠川 斎藤修竹 関根史山 長瀬沙焱 古谷華楓 室伏雅箒 横溝景陽 有友啓扇 石川秀苑 井上醉生 江原梢風 大竹翠葉 岡林起仙 ○河島彩澄 酒井雅代 佐那 白石百合子 須山馨扇 ○只野翠苑 田端香峰 寺田景翠 ○長岡輝美 ○林帛甫 藤村満恵 堀川梨華 松村数範 本山鈴翠 吉田悟

第43回 産経国際書展に向けて



次代を担う世代への広がり

実行委員長 副理事長 金丸鬼山

第43回産経国際書展の開催にあたり、関係各位の尽力に心より敬意を表します。

産経国際書展は長い歴史の中で書の魅力と可能性を広く発信し、伝統を受け継ぎながらも新しい表現を育んで今日に至りました。毎年のことにはなりますが、本展には漢字・仮名・篆刻・現代書など多彩な作品が一堂に会し、その作品を拝見するたびに書の奥深さと作家一人ひとりの熱意を感じて参りました。

書は単に文字を美しく表すだけではなく、作家の心を映し、それを社会に、また後世に伝える文化です。本展を通じて書の素晴らしさをさらに多くの方々に知ってもらい、同時に次代を担う若い世代にも書への関心が広がることを願っております。本展の盛会を心より祈念申し上げますとともに、漢字や仮名、篆刻、現代書など多くの分野で次代を担う若い世代が登場することを期待し、多くの皆様にご来場いただける展覧会となるよう尽力して参ります。

第43回 産経国際書展 審査員

●特別選考委員

石川天瓦、今口鷺外、岩浅写心、風岡五城、笠嶋忠幸、齋藤香波、晋鷗、高橋照弘、竹澤玉鈴、武富明子、田村政晴、鍋島稲子、原田圭泉、松崎龍翠、村越龍川、山下海堂、劉作勝、渡邊麗

●漢字

新井瑞鳳、伊藤秀泉、及川扇翠、大田桂水、大庭清峰、坂本香心、鈴木曉昇、長尾佳風、平岡雄峰、古谷華楓、前田聖峰、丸田華芳、村越弘鷹、本橋春景、山本晴城

●かな

伊藤春魁、梅田ちか子、鎌田悠紀子、谷蒼涯、中村雪鷺

●現代書

加柴律子、河口美櫻、菊山武士、小杉秀花、五月女紫映、鈴木愚山、萩原彰子、林帛甫、久田方琥、正川子葉、三宅秀紅、渡辺敦子、渡邊麻衣子

●篆刻・刻字

岩浅写心、沈強、高橋照弘

●臨書

金丸鬼山、小池雅游、眞田朱燕、利根川秀佳、町山一祥

●特別予備審査

今口鷺外、風岡五城、高橋照弘、原田圭泉、渡邊麗

※外部審査員 特別選考委員＝笠嶋忠幸(出光美術館学芸部部长)
鍋島稲子(台東区立書道博物館館長)
劉作勝(愛知学院大学教授)

第 43 回 産経国際書展実行委員会

【実行委員長】		金丸鬼山	
【審査部】	本部長	勝田晃拓	
	漢字部 部長	吉野富龍	副部長 恩田瑞貞
	委員	石川晴空、東浦暁舜、盛田理泉、和田玲砂	
	かな、篆刻・刻字、臨書部		
	部長	諸留大穹	
	委員	進藤栄峰、高野彩雲、松岡篁月、宮川彪子	
	現代書部 部長	西川万里	
	委員	倉賀野静、栗原蓮翠、鶴淵雅泉、布施夏翠、横田玉華	
【搬出入部】	部長	永田龍石	
	委員	梶谷綾泉、門山玲花、柴山枝峯、塚原桃虹、村山蛭泉、矢野春潮	
【陳列部】	部長	山本晴城	副部長 永田龍石、渡邊祥華
	委員	阿久津由美、安蒜欣青、泉芳秋、内田子鴻、大場映翠、岡村公裕、五戸光岳、柴山枝峯、鈴木暁昇、鈴木蓉春、関根史山、中野和博、林龍成、村越弘鷹	
【図録部】	部長	青木錦舟	副部長 岩村恵雲
	委員	大久恵華、恩田瑞貞、久米麗鳳、諏訪春蘭、高橋峰月、武翠泉、村山蛭泉	
【東京部会】	部長	武富明子	副部長 山下翠風
	委員	岩間桃香、久米麗鳳、関根春峰、高橋翠石、秦祐子	
【東北展】	顧問	田村政晴	
	実行委員長	松崎龍翠	
	事務局長	建部恭子	
	実行委員	伊勢枝香、小笠原素心、小鳴カズ子、五戸光岳、末永香雅、鈴木葉光、建部紘子、芳賀祥祿、宮崎礼子、渡辺敦子、渡部美恵子、渡辺龍泉	
【中部展】	顧問	村越龍川、風岡五城	
	実行委員長	勝田晃拓	
	副実行委員長	山本晴城、渡邊祥華	
	実行委員	赤堀翠柳、磯邊哲舟、伊藤春魁、大場映翠、岡本杏華、加藤松亭、菊山武士、木村大澤、小泉玲洗、佐武照聲、松永葵心、村越弘鷹、和田玲砂	
【関西展】	顧問	平方峰壽、今口鷺外、小野亭良	
	実行委員長	松井玲月	
	副実行委員長	正川子葉	
	実行委員	長尾佳風、中村雪鷺、久田方琥、西尾蘭畦、篠原秀朋、生田佳葉、加藤竹黎、柳鵬翔、山田秀園、山田娃泉、山口了世	
【瀬戸内展】	実行委員長	大庭清峰	
	副実行委員長	上村陽香	
	実行委員	平岡雄峰、大段栄泉、三宅秀紅、大田桂水、鈴木蒼、藤井峯子、田中春畝、圓田翠泉、藤井玉瑛、曾根小徑、田中吳峰、植木由樹子、美之口琴晴	

第 42 期 産経国際書会運営委員

※任期は令和8年4月1日～令和9年3月31日(50音順)

【総務部】

担当 理事長代行 坂本香心
部長 浅香秀子
委員 鈴木博子、戸叶幽翠、人見恵風

【会報・広報部】

担当 副理事長 永田龍石
部長 小川艸岑
委員 影山瑤琴、早坂喜伊、横田玉華、
渡邊麻衣子

【企画部】

担当 副理事長 金丸鬼山
部長 岩村恵雲
委員 大久恵華、恩田瑞貞、盛田理泉

【研修部】

担当 副理事長 勝田晃拓、永田龍石
委員 進藤栄峰、松岡篁月

【教育部】(ジュニア育成)

担当 副理事長 松崎龍翠
部長 眞田朱燕
副部長 高野彩雲
委員 岡田崇花、岡村紫瑤、鎌形美遊、
小池雅游、今野美晁、笹山紅樹、
鈴木葉光、長岡輝美、長谷川明扇、
星野葉柳

【DX推進部】

担当 副理事長 町山一祥
委員 鈴木曉昇、新井大鳳
※デジタルトランスフォーメーションによる業
務効率化(審査、陳列、PR…)
※SNSによる広報、集客、収益事業などを構築
することを目標とする

【会員増加企画(東京)】

担当 理事長代行 坂本香心、渡邊麗

【会員増加企画(大阪)】

担当 副理事長 正川子葉、松井玲月

【東京】 部長 武富明子
副部長 山下翠風

【東北】 部長 松崎龍翠
副部長 建部恭子

【中部】 部長 山本晴城
副部長 伊藤春魁

【関西】 部長 松井玲月
副部長 正川子葉

【瀬戸内】 部長 大庭清峰
副部長 上村陽香

新役員からひとこと



手島恭六最高顧問

この度思いがけずも最高顧問を拝命いたしました。御推薦賜りました諸先輩に心からの敬意を表すると共に、本会の伝統と斯道の精神の重みを拝察し、身の引き締まる思いです。混迷を極める現代において、墨香に心を静め、精神を集中して書作に取り組むことは、重要な文化活動であると確信しております。微力ながら、会員の皆様がより一層の至芸を極められますよう、職責を全うする所存でございます。

新役員からひとこと



大庭清峰副理事長

今期より副理事長を務めさせていただく事になりました。これまでは地方展である瀬戸内展の開催を中心に尽力してきましたが、今後は産経国際書会の一層の発展、飛躍のため頑張っていく所存でございます。師である美之口起心先生、寺尾桂翠先生の意志を継ぎ努力して参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

新しく審査会員になられた方

安住美櫻	安静圓成	石川光苑	市川和子	猪原 忍	植田 拳	植西美侑	江口鶴翠	遠藤吟翠
大峠 仁	小田香倫	小野寿美子	小俣紫香	鐘築重治	川上青舟	清水玲飛	城前玉香	菅沼松峯
田頭育子	田丸翠玲	津川えりか	津田玉華	津田芳華	鳥居貴子	中村璣峰	羽根田皋菖	半谷松華
村瀬蕙風	毛利恵華	安田青涛	山地暁翠	渡邊彩花				

新しく無鑑査会員になられた方

安藤昇猫	稲岡輝祥	岩山淑子	江場皋月	太田春麗	大和田幸仙	小野田幸儷	川端佳叶	菊地華香
木村恵彰	葛谷綺仙	五島冴津	後藤蒼葉	小松恵仙	桜井峰心	佐藤良子	白川史代	鈴木春陽
鈴木翔馬	鈴木智苑	須永曉聖	瀬谷秀蘭	武安典代	田近清風	團 蓮禾	手塚純子	永澤陽子
中曽根曉侑	中村城風	根岸鏡華	八藤江彩	廣瀬天翔	深川秀鳳	深澤慶川	藤井優子	藤原彩園
布田寿子	堀江曉輝	前川みさ	蒔田桜蘭	増田 圭	松岡幸子	森田玲心	山内秀洸	山口曉彩
湯川湖霖	横田礼子	芳村里奈	若宮舞奏	渡部香茜				

新しく会友になられた方

秋山尚美	新井荷徑	荒生照美	伊倉沙夏	池田芳苑	一條翼堂	井手崇佳	伊藤かず美	伊藤由里加
稲垣 慧	岩倉葉伽	上垣ひとみ	内海智江	大野祥春	大橋正代	岡田邑翠	沖山紅峰	加賀谷早苗
梶野和華	梶原明美	門井春海	加藤紫苞	加藤泉舟	加藤美泉	亀田明子	川崎鶯遊	神戸雅史
菊次 稔	金野潤子	國岡豊扇	久保静雪	黒木麻友	後藤伊津子	小林湖月	小林靖愛	桜井烽舟
佐々木治子	里 翠詠	佐藤典子	佐藤佳江	真田久美	三林三重子	清水吉子	白石直美	志波梧桐
杉本喜久江	鈴木千翠	砂田邨山	曾根緋月	高橋蒼菴	田口玉華	武田洋泉	田中海月	田邊青藍
柘植あづみ	辻 裕子	寺本紫龍	戸嶋香子	豊島優子	中嶋英里	永田碧泉	西口香龍	野村任子
橋本萩華	服部 弘	花見ほのか	原山奈美	藤山桃詠	古館輝美	舞原文鳳	松葉歩々	松宮美希
松村さとみ	嶺岡研堂	村田侑里恵	望月大仙	茂木一幸	山口堯扇	山口慧扇	山下美紀	山中冬榕
山本恵利子	山本恵子	山本恵舟	横山麻里亜	吉田照月	渡邊 愛	渡辺大香		

第42回 産経国際書展 新春展



東京部会部長 副理事長 武富明子

令和8年1月21日から2月2日まで「第42回新春展」が国立新美術館にて開催されました。初日のテープカットの前に、今年は6人の先生方がご自身の作品についてお話下さり、有意義なオープニングとなりました。幸い会期中はお天気に恵まれ、ご来場者数が増えたように思いました。

開催前日の陳列の日に風岡五城名誉理事長が『いつも以上に今年の会場は華やかで、彩の配分も良く雰囲気が良い』と評されました。新春展はⅠと大作数点、新春展Ⅱの条幅作品などが特徴ですが、本展より大きな作品形式と軸装が多いことからカラフルで華やかです。

それから明治記念館での贈賞式・祝賀会の前に美術館内で行われるギャラリートークは多くの人が押し寄せて、作家の話に傾聴し、中々の人気です。ふと、来年は公募の産経新聞社賞受賞者のトークも、新聞掲載記事だけでなく生で聞いてみたいと思いました…。

無事に盛会裡に終了しましたのも会期中受付当番を担当して下さった東京部会と社中の先生方のご協力のお陰です。厳寒の砌ご来場下さったお客様にも心から御礼を申し上げます。

明るく広々とした国立新美術館での開催は令和9年までとなり、令和10年からは東京都美術館に変わります。出品点数・入場者数を増やし「第43回新春展」を盛り上げて参りましょう!!



開幕式テープカット



会場入り口の様子



贈賞式・祝賀会場の様子



産経新聞社賞受賞の皆さん



会友奨励賞受賞の皆さん



奨励賞受賞の皆さん



奨励賞受賞の皆さん



奨励賞受賞の皆さん



奨励賞受賞の皆さん

「第43回産経国際書展新春展」大作募集

産経国際書展新春展の顔として定着してきた大作。次回も産経国際書会を代表する力あふれる大作を募集します。出品資格を満たせばどなたでも出品は可能ですが、大作の出来映えは、産経国際書会全体の力量が問われる重要なものとなります。

自薦、他薦ともに下見会を実施します。

詳しくは書会事務局（03-3275-8902）まで。

出品資格	無鑑査以上
応募締切	8月末
応募数	5点(最大7点まで)
下見日	9月17日(木)予定
寸法	4疋×4疋以内

新春展は令和9年度以降は東京都美術館開催

東京・六本木の国立新美術館で開催されてまいりました新春展は令和9年度～13年度の5年間、東京都台東区の東京都美術館での開催となります。国立新美術館の会場メンテナンスのため毎年1月の1カ月間、全館休館となるためです。この間の5年間の会期は2月21日～27日。名称は「産経国際書会 春季展」となる予定です。来年は今まで通り、国立新美術館で1月20日～2月1日の間開催致します。

第42回 産経国際書展 新春展ギャラリートーク

第42回産経国際書展新春展では、代表展出品作家と大作出品作家によるギャラリートークが1月30日、国立新美術館の会場で行われました。作品制作の意図や思い、そのテクニックなどを各々が自作の前で解説、大いにアピールしました。漢字の磯邊哲舟常務理事が地元・御殿場から身近に感じる雄大な富士山に思いを馳せ、石川丈山の漢詩を熱く解説すれば、眞田朱燕常務理事は聖徳太子の「十七条の憲法」の一と二を書き、その意味を丁寧に紐解きます。さらに、五月女紫映常務理事は「君が代」を現代書で流麗に書きあげ、話は世界各国の国歌にまで及びました。「富士山」「十七条の憲法」「君が代」ときて、誰もが話足りない様で会場は熱気をはらみながら予定の時間を過ぎ、30分近い時間がたってしまいました。

大作コーナーでは建部紘子さんと山本てるみ評議員がおまちなかで、審査会員の建部さんは「書いてみたかった」という高村光太郎の愛の詩「後庭のロダン」の一節を現代書で表現、山本さんは「誕生」と題したマグマが沸々と湧き出すような作品で左に大きな空間をとりたかったと解説、人々を魅了していました。

5人のトークでしたが、各人熱が入り、少々予定の時間を過ぎてしまいました。今回のギャラリートークは産経国際書会YouTubeチャンネルでも同時配信を試みました。現在も、下記から視聴ができます。

<https://www.youtube.com/watch?v=BW-GEIH6MQI>



ギャラリー
トークの
QRコード



聴講した多くの来場者



磯邊哲舟常務理事



眞田朱燕常務理事



五月女紫映常務理事



生配信の撮影の様子



建部紘子審査会員(当時)



山本てるみ評議員

DX推進部



町山一祥
副理事長

この度、総会の承認を経て新たに「DX推進部」が新設され、鈴木暁昇さん、新井大鳳さんとともにその役を任せられました。

“DX”とはあまり耳にしない言葉ですが、デジタルトランスフォーメーションの略です。これはデジタル技術を使い、業務の効率化や競争力の向上を目指すことを目的としています。会員皆さまの作品や活動をデジタル情報の発信源として広く一般に周知していくことで、広告費用の削減につながったり、デジタル端末を使用した講習会への参加なども可能となり地域格差が是正されます。

会員の皆さまの情報供与をより迅速に、そして産経国際書展が広く一般の方々に認識されるよう活動してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に皆さまには、インスタグラムのチャンネル登録をお願いし、「♥」ボタンをポチッとしていただければ私たちの励みにつながります。横のQRコードからどうぞ登録をお願いいたします。



鈴木暁昇常務理事

産経国際書会の伝統と魅力を大切にしながら、InstagramやYouTubeなどを通じて、書に親しみのない方にもその素晴らしさをわかりやすく届けられるよう尽力します。丁寧で継続的な発信を重ね、より多くの世代との接点を育み、新たな出会いを生み出すことで、会員数の増加とInstagram・YouTubeのフォロワー拡大につなげ、書の文化を次代へ広げる力になれるよう努めます。



新井大鳳審査会員

この度「DX推進部発足」に伴い担当を仰せつかりました新井大鳳と申します。書道という伝統文化を継承しつつ、各々のライフスタイルに合わせて「学びやすさ」や「体験の幅」を広げるオンライン学習推進のため、微力ながらも取り組んで参ります。

どうぞ宜しくお願い致します。

産経国際書会ホームページをリニューアル

産経国際書会の公式ホームページ (HP) が今春、デザインを一新しリニューアルしました。会報や各会書展情報を掲載しているほか、注目トピックスとして書のホットな話題を随時掲載して参ります。産経国際書展、新春展、産経ジュニア書道コンクールの出品票などをダウンロードすることも可能です。会員の皆さまが利用しやすいHPとして、今後も改善をして参ります。



秋季研修会は10月24、25両日 国立新美術館講堂で

秋季研修会を10月24、25の両日、東京・六本木の国立新美術館3階講堂で実施します。内容や講師などは研修部を中心に検討中ですが、一昨年行いました実践指導型になる予定です。また今回は地方の参加希望者向けのオンライン配信も計画しています。詳細が決まり次第、次号の会報や産経国際書会のホームページなどでお伝えします。

うちの社中を紹介します!

海游舎

海游舎副会長
産経国際書会副理事長 青木錦舟

海游舎は産経国際書会最高顧問である山下海堂会長が平成20年に創設し、今日に至っております。山下会長のもとで、同会常任顧問の高木撫松会長代行、同会副理事長の青木錦舟副会長、同会常務理事の本橋春景副会長兼事務局長の4人の社中で構成しており、書会役員はその他に専管理事の布施夏翠と盛田理泉、評議員の大毛青舟、大平美術、日野翔鳳、吉田悟が委嘱されています。

山下会長は師・柴田侑堂先生の流れを受け、格調高く剛胆な漢字作品を残し乍ら、今日日々新たな挑戦をし続けております。社中代表の4人それぞれが師も異なり、書歴も書風も違う個性を持っていることが海游舎の特徴の一つとも言えます。



今年3月29日に行われた研修会の様子



令和5年の海游舎総会での記念写真



令和5年の海游舎書展の陳列作業後の記念撮影

産経国際書展を中心に年に数回行われる研修会に於いて互いに大きな刺激を受け、書作向上の一助となっております。研修会では、いつも山下会長が参加者全ての作品に分け隔てなく、的確なアドバイスと添削等きめ細やかな指導をしてくださり、その見事な筆技に皆感動します。会長の熱い思いがそのまま熱気となり、充実した勉強の場を得られることには感謝しかありません。

会員同士も社中を越え、それぞれの社中展や出品書展に赴き、書を通して交友を深めているのも嬉しいことです。

海游舎書展は2年に1度開催して参りました。昨年10月には第9回展を埼玉会館に於いて、大小120点余りの作品を展示し、漢字、仮名、現代書、臨書とバラエティに富む展観となりました。書会の皆様にも御来場賜り、この場を借りて心より厚く御礼申し上げます。

来年、令和9年には第10回の記念展を予定しており、会員一同思いを強くしております。山下会長が「心を書に映す作品を!」と申される真意を深く胸に刻み、海游舎としての独自の歩みを進められるように精進して参ります。

今後とも何卒宜しくお願い致します。



第30回産経国際書展で揮毫する山下海堂会長

書展 トピックス

第20回埼玉県書作家連盟展

谷蒼涯

- 会期 11月28日(金)～11月30日(日)
- 会場 所沢市民文化センター ミューズ

埼玉書展は約300点から始まり、第20回展では1000点を超える大展示会へと成長しました。会派にとらわれず、一般部は仮名・漢字・調和体、児童部は毛筆・硬筆の作品を展示し、所沢市長をはじめ多くの方にご高覧いただきました。表彰式もこれまでで最も立派な会場で行われ、受賞者の皆様も誇らしげでした。



敬の書 岩田和道展

岩田和道

- 会期 12月19日(金)～12月24日(水)
- 会場 神奈川・鎌倉芸術館

この度初めての個展を開催し、漢字、仮名、現代書、臨書、水墨画など31点を展示しました。敬の書をテーマとして、人、文化、自然、生命等に敬意を込めて制作し、師の齋藤香坡先生にご指導を賜りました。おかげさまで多くの皆様のご来場をいただき温かい声に触れてとても励みになりました。心より感謝申し上げます。今後も精進していきたいと存じます。

第61回同巧会書展

武富明子

- 会期 2月17日(火)～2月22日(日)
- 会場 ギャラリーくぼた

京橋のギャラリーくぼたにおいて「第61回同巧会書展」を5年振りに開催しました。たくさんの先生方、新聞社や書会事務局の方にご来場賜り、盛会裡に終了出来ましたことに心から感謝し厚く御礼を申し上げます。今後も一層精進を重ねて参りますので、さらなるご教導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



國井誠海一門創立80周年記念 誠心社現代書小作品展

渡邊麗

- 会期 4月15日(水)～4月19日(日)
- 会場 上野の森美術館ギャラリー

産経書会設立に参画した國井誠海が1946年創設直門の会「誠心社」は本年創立80周年。会場は連日盛況。上野精養軒祝賀会に多数ご来賓ご臨席を賜りました。来年は上野の森美術館本館2階で「國井誠海記念館40周年記念展」を開催。本展では大作と小作品を交互に毎年発表、超大作や揮毫動画上映、テーマを決めた作品発表など新企画にも挑戦。歴史を守りながら楽しめる現代書を目指します。会員一同よりお礼申し上げます。



中国大使館文化部賞受賞祝賀会

●令和7年12月7日(日) 都シティ大阪天王寺

大勢の皆様からの励ましと温かいご支援のおかげをもちまして、書の道57年の集大成、となる節目に栄えある賞を賜り記念すべき舞台に花を添えていただきましたこと、心より深く感謝申し上げます。今後は、賜りましたご厚情への御恩返しを胸に、一層精進を重ね日本書道の発展に微力ながら寄与できますよう努力してまいります。なお祝賀会の様子はQRコードよりご覧賜れますと幸いに存じます。

正川子葉



高円宮賞受賞記念祝賀会

高橋照弘

●令和7年12月10日(水) 東京ステーションホテル「鳳凰」

第42回産経国際書展本展において高円宮賞を賜り、その祝賀会を開催致しました。出席者は産経新聞社からは近藤哲司社長、飯塚浩彦相談役(産経国際書会会長)の皆様方、書会からは最高顧問の齋藤香坡先生、山下海堂先生のほか、会員の方々、評論家や業界関係者の方も含め120人もの方にご臨席いただきました。会場内は厳かで華やかな雰囲気にも包まれつつ、一方で皆様の温かい心遣いから和やかなムードに。書会の発展に向け、今後も一層精進して参ります。



國藝書道院創立50周年記念祝賀会

●2月11日(水・祝) 横浜・ホテルプラム

齋藤香坡

本年は、40歳でサラリーマン生活をやめ國藝書道院を立ち上げてから、50周年の節目の年を迎えました。祝賀会には、山下海堂最高顧問、高橋照弘理事長をはじめ書会幹部の方々を含め約220人にご出席いただき、御礼を申し上げます。揮毫会は若手の書家だけでなく、山下先生にもご参加いただいき大いに盛り上がり、書を愛する仲間の熱気であふれ、会員一同さらなる発展を期しました。



第42回最高賞作家ミニ作品展

●3月24日(火)～29日(日) 東京銀座・鳩居堂

事務局

この作品展は全国一流書道展で最高賞に輝いた人たちの顕彰する展覧会です。第42回産経国際書展からは、高円宮賞の高橋照弘、内閣総理大臣賞の小川艸岑、ペルー共和国大使館友好賞の大橋玉樹、専管理事優秀賞の鈴木曉昇、国際大賞の建部紘子の各氏が出品しました。日展、読売、毎日など会派の異なる方々との新作が一堂に公開されました。



第15回手島右卿賞受賞

井上空咲

●3月27日(金)～31日(火) 高知市文化プラザ かるぼーと

この度、第15回手島右卿賞を拝受致しました。3月27日高知にて受賞式が行われ、同時に受賞記念展が31日まで開催されました。3×4.6メートルの大作や高知にちなんだ作品を含め約20点を展示。墨象の馴染みのない土地柄で不安もありましたが、沢山の方々にご来場頂き、お楽しみ頂けた事と感謝しております。



生田博子先生を偲ぶ

米国書道研究会の生田博子会長が本年1月14日、ロサンゼルス、ガーデナ市の自宅にて享年96歳でご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。2015年10月「米国書道研究会創立50周年記念日米合同書展」に誠心社会員や産経国際書会の先生方と共に渡米、博子先生のおでやかな姿が思い出されます。

博子氏は、11歳から茶道、華道、書道を学び日本の文化に親しまれ、生田観周師と結婚、観周師が日蓮宗の開教師としてワシントン州シアトルに赴任したのに伴い渡米。後に南カリフォルニアを拠点に書道と茶道の普及に邁進。特に現代書のパイオニアと称された國井誠海師に夫妻で弟子入り後、誠心社展、産経国際書展、東洋書人連合で活躍。観周師逝去後は会長に就任、米国で書道を指導されました。昨年9月、米国書道研究会創立60周年、生田観周師生誕百年記念の日米合同書展をロサンゼルス日米文化会館で開催。博子氏の遺志を継ぎ米国書道研究会の今後益々の活躍に期待致します。本年4月の誠心社展御作品は絶筆となりました。



2015年10月の「米国書道研究会創立50周年記念日米合同書展」でのテープカット。左から3番目が生田博子氏

産経国際書会理事長代行 誠心社会長 渡邊麗

各会書展お知らせ(産経新聞社後援) (2026年5月～9月)

展覧会名	会期	会場	団体・代表名
第51回鍾雲書道展覧会	5月30日(土)～5月31日(日)	埼玉・寄居町中央公民館	鍾雲書道会・秋葉秀匡
第4回片山澄男 書の世界`継、 ～書は世紀を越えて～	5月31日(日)～6月6日(土)	東京交通会館 地下1階ゴールドサロン	澄山会・増川知子
第12回あんぱんの会と その仲間たち書展	6月7日(日)～6月13日(土)	東京交通会館 地下1階ゴールドサロン	あんぱんの会・青木錦舟
第50回記念東洋書芸院公募展	6月16日(火)～6月21日(日)	東京都美術館1階第2展示室	東洋書芸院・町山一祥
2026臨泉会選抜小品展	6月23日(火)～6月28日(日)	銀座 鳩居堂	臨泉会・原田圭泉
第40回記念春風会書展	6月26日(金)～6月28日(日)	愛媛県美術館	春風書道会・平岡雄峰
第60回記念書峰展	6月27日(土)～6月28日(日)	埼玉・秩父じばさんセンター	書峰書道会・田島青谷
第51回梓書道会展	6月27日(土)～6月28日(日)	東京・タワーホール船堀	梓書道会・市原蘇水
第50回國藝書道院展	7月17日(金)～7月20日(月・祝)	神奈川・鎌倉芸術館	國藝書道院・齋藤香坡
第5回パレイ書会展	7月28日(火)～8月2日(日)	セントラルミュージアム銀座	パレイ書会・鈴木不倒
第52回宏道書展	8月4日(火)～8月9日(日)	愛知県美術館ギャラリー	宏道書会・山本晴城
第58回現代書作家協会展	8月6日(木)～8月16日(日)	国立新美術館	現代書作家協会・利根川秀佳
第48回墨展	8月21日(金)～8月26日(水)	埼玉・埼玉会館	墨展書道会・岩田正直
第42回高円宮杯日本武道館 書写書道大展覧会	8月23日(日)	日本武道館 大道場・中道場	日本武道館・川端達夫
第31回秋桜会書展	8月27日(木)～8月30日(日)	銀座 大黒屋ギャラリー	秋桜会・鎌田悠紀子
group f 2026展 vol. 9 広島	9月8日(火)～9月13日(日)	gallery G(広島市)	group f 植木由樹子
第41回全国臨書摸刻展	9月18日(金)～9月20日(日)	埼玉・埼玉会館	心芸墨美作家協会・岩浅写心
第35回舟友会書展	9月29日(火)～10月4日(日)	銀座 鳩居堂	舟友会・青木錦舟
墨色のエボリューション2人展	9月29日(火)～10月4日(日)	銀座 鳩居堂	小川艸岑、小宮求菫

顧問会議、令和元年以来8年ぶり開催

産経国際書会の顧問会議が2月20日、産経新聞本社で開催されました。新型コロナウイルス禍などで見送りが続いており、開催は実に令和元年以来8年ぶり。手島泰六名誉顧問、原田圭泉名誉顧問、高木撫松常任顧問の3人の顧問と風岡五城名誉理事長、高橋照弘理事長、事務局が参加して行われました。各顧問からは、各書展の贈賞式運営や審査に関する問題提起などもあり、活発な議論が展開されました。

追悼

次の先生が黄泉につかれました。
本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、
心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

名誉顧問 生田 博子(令和8年1月) 会友 井理 泉鷲(令和7年9月)

編集後記

今年も1月の新春展から順調なスタートを切りました。華やかな新春の雰囲気にも包まれた会場には多くの皆さまにご来場いただき成功裡に終えることができました。そして、いよいよ第43回本展の本番へと動き出します。5月31日からは審査会が始まります。心に残る展覧会となるよう、皆さまのご協力をお願いいたします。

時代の流れに即したDX化への新たな取り組みも始まります。この取り組みが世代を超えた交流を育み、産経国際書会の更なる発展へと繋がっていくことを願っております。

2月から3月にかけてはミラノ・コルティナ冬季オリンピック・パラリンピックが開催されました。“メダルラッシュ”の選手たちの活躍や“りくりゅう”ペアの逆転による金メダルは多くの人々に深い感動を与えました。選手たちのためまぬ鍛練の積み重ねと本番での信念を貫く姿、その尊さは「書」の道にも通じるものがあるのではないのでしょうか。

2月下旬以降、国際情勢は一段と緊迫し、その影響は遠く離れた私たちの暮らしにも、資源価格や物価の高騰という形で広がっています。こうした時代にあって、「書」はあらためて言葉の本質を問いかけてくれる存在のように思われます。言葉は人の心を結び、思いを通わせるもの。その積み重ねの先にこそ、静かに平和への道が開かれていくのではないのでしょうか。一日も早い真の平和の実現を心より願っております。(横田玉華)

(会報編集委員／永田龍石、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、横田玉華、渡邊麻衣子)

表紙：題字揮毫は高橋照弘理事長

編集・発行 令和8年5月号
〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2
産経新聞社事業本部内
産経国際書会事務局
TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974
email : shokai@sankei.co.jp
<https://sankei-shokai.jp/>
<https://www.facebook.com/sankeishokai>



産経国際書会
ホームページ

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにご願ひ致します。